

# 脳神経外科

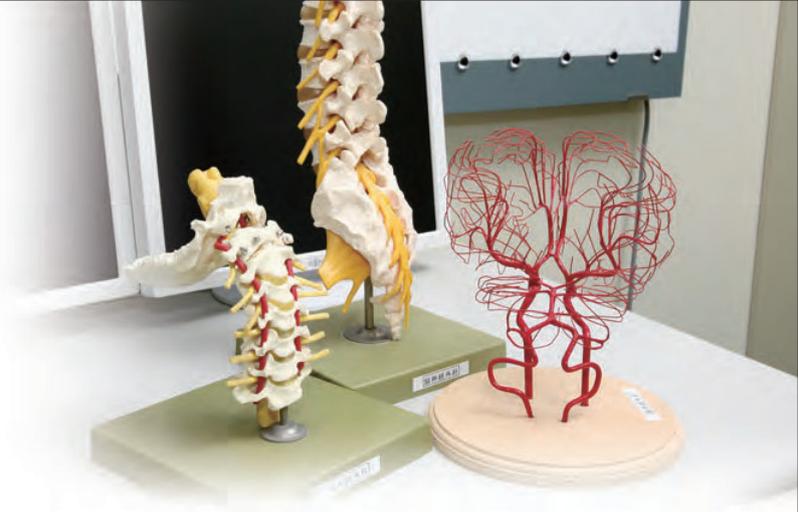
## 診療科の概要

当科は1991年に開設され、国内でも数少ない小児脳神経外科の専門施設です。小児の脳と脊髄における、外科的疾患全般を取り扱っています。常勤医師3名（うち脳神経外科専門医2名）体制で、夜間、休日の救急にも対応しています。手術適応のない、頭部外傷の経過観察入院にも、積極的に対応しています。

## 主な対象疾患

外科的治療が必要と考えられる脳脊髄疾患はすべてが対象です。

- ・二分脊椎：脊髄髄膜瘤、脊髄脂肪腫など
- ・二分頭蓋：脳瘤など
- ・キアリ奇形
- ・水頭症：先天性水頭症、脳室内出血後水頭症内など
- ・う胞性疾患：くも膜嚢胞など
- ・脳血管障害：もやもや病、脳動静脈奇形など
- ・頭蓋骨縫合早期癒合症：アペール症候群、三角頭蓋、非症候群性頭蓋骨縫合早期癒合症など
- ・脳脊髄腫瘍：髄芽腫、毛様細胞性星細胞腫、上衣腫など
- ・頭蓋骨腫瘍：類皮腫、ランゲルハンス細胞組織球症など
- ・頭部外傷：頭蓋骨骨折、陥没骨折、頭蓋内出血など
- ・中枢神経系感染症：脳膿瘍、脊髄膿瘍など
- ・痙縮：痙性斜頸、側湾症など
- ・難治性てんかん



## 専門外来

### ・てんかん外科外来（第3木曜日午後）

大阪大学脳神経外科のてんかんグループから月に1回専門医が派遣され、外来診察を行っています。手術が必要な場合は同医師と当センター医師が共同で手術を行います。

### ・‘あたまの形’外来（第1・2・5木曜日午後）

あたまのかたちが気になるお子さんの診察を行います。頭蓋骨縫合早期癒合症などの病的なものか、寝ている位置による位置的頭蓋変形かを診断します。後者の場合は、希望によりヘルメット矯正療法を行うための処方箋をお渡しします。

当外来は「紹介状なし」で受診が可能です。（患者さん自身で初診予約を取得できます。）

### ・痙縮外来

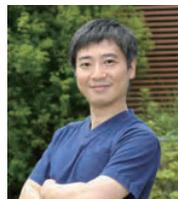
痙性斜頸や側湾症・下肢痙性に対する診察を行います。ボツリヌス毒素製剤療法（A型：ボトックス、B型：ナーブブロック）やバクロフェン髄注療法後の薬液補充を行います。

## 診療実績（2023年）

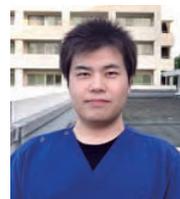
手術件数：136件

（二分脊椎：21件、脳脊髄腫瘍：16件、水頭症関連手術：44件、もやもや病：8件、てんかん手術：4件、その他：43件）

入院患者数：486名



主任部長  
千葉 泰良



診療主任  
中川 智義